

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者グループホーム 宇賀の里 楽舎
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	島根県出雲市奥宇賀町23番地-10
記入者名 (管理者)	祖田優子
記入日	平成 20 年 11 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は開所の時のスタッフと一緒に考えた物である。一つは「入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え、命を護る」を楽舎共通の理念とし、一つは「愛、家族、絆のかけはしに」を掲げ、後からの入社スタッフにも理解してもらえよう研修している。また、毎月の目標を立てて取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月月初めにその月の理念を作り(スタッフが)毎朝唱和している。そして実践するように取り組んでいる。楽舎、里の理念と月のスタッフの理念を毎日唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の寄り合いや、地区福祉協議会定例会などに参加し、グループホームの理念、地域へのグループホームの役割などをお話したり楽舎新聞を定期的に発行して配布し、理解して頂けるよう取り組んでいる。		地域の方や老人会の大勢の方の見学をどのように受け入れるかが課題である。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	御近所の方が季節の物(柿、きゅうり、ナスなど)気軽に持って来て下さったり、又、お茶しに来て下さったりと良い関係が出来つつある。隣の建具やさん、畳屋さん、郵便局、警察の方、何かと気にかけて頂いている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福祉フェスティバル、地域のイベント(ほっと平田)小中学校の運動会、学習発表会などに招いてもらったり、又、地域の人とのささまき作りなど交流など行っている。		逆デイを少しずつ取り入れている。各個人の、地元の運動会へ参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	福祉フェスティバルにて、音楽療法、フラワーアレンジメント、アニマルセラピーなど通して認知症介護予防に努めている。	○	今年にはばたもち会を楽舎で毎年地区で開催する予定となっている。どんどん受け入れていこうと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	入居者さんの個々の力を十分発揮できるよう、個人の情報をより記録に残す様になっている。又、既存の外部評価を参考にしている。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2か月に1回、運営推進会議を行い、里の理念やケア方針など地域の人に理解して頂くようにしている。メンバーも固定しないで多種多様な方の意見をケアに反映している。毎回、会社の役員も参加するなど、市への情報もきちんと報告している。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市、グループホーム連絡協議会へ参加したり情報提供を取り寄せている。又、赤い羽根共同募金や研修会等に積極的に参加し、相談の機会を設けている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修会に積極的に参加している。		成年後見制度なし。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	カギをかけない方針である。又、身体拘束はしない方針である。必要な時はきちんと御家族様に説明し、同意を得ることになっている。スタッフも研修などにて、理解を徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書にきちんと記入し、入所時、入所後もその都度状況に応じて説明し、理解して頂いている。説明は2人体制で必ずしており、記録にも残している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、面会時にもこちらから声をかけて意見や苦情が気軽に言ってもらえるようにしている。又、運営推進会議などでも入居者の方や家族に意見を言って頂けるように心がけている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「こんにちは楽舎です」ホームの新聞などを作成し家族や地域のみなさんにも様子が分かるようにしている。又、毎月1回、入居者の日々の様子をお手紙にてお知らせしている。行事案内なども出している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に気がかりな事や不安な事など気軽に声をかけて頂けるよう、必ずお茶を出したり、言いやすい雰囲気作りに努めている。理念をもとに家族様との絆を作っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回第1火曜日19時～職員研修会を開き意見や提案を聞く機会を設けている。運営者、管理者は職員の個人面談を行い、意見を聞いて提案を反映させている。</p>	6月人事考課あり。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員はお互いに理解しており、勤務調整について、柔軟な対応が出来るようになってきている。必要な時間帯に職員確保されている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの関係を大切にしている。離職ない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オリエンテーションを通してグループホームのスタッフの心構えなど研修している。又、外部研修会へ積極的に参加してもらったり、内部研修にて発表してもらいスキルアップに努めている。(ヘルパー習得済み)	ケアマネ、介護福祉士、ヘルパー、認知症ケア専門士など試験へ挑戦していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し協議会での研修に参加し、情報交換し、事業所に持ち帰り支援に活かしている。又、研修会にて知り合った管理者、スタッフとの意見交換を2か月に1回定期的に行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	互助会あり。地域交流会「泥田バレー」職員カラオケ大会など、楽しみな催しに参加している。希望休なども取り入れている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会に参加(職場より手当などあり。)又、楽舎で研修レポートを提出し、発表するときちんと、奨励金を出して、がんばる力を引き出している。	個人面談による1年に1回の人事考課に反映している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前から、家族や本人から詳しく話を聞くなど担当者会議を行い、アセスメントをし過去の生活歴などからも本人の理解に努め、安心して楽舎での生活が送れるよう話し合いを多く持つようにしている。	本人が困っている事、不安に思っている事など話をよく聞く時間を持ち、解決できるよう努め、本人との信頼関係がしっかりと築いていけるように努力している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	会話の中から家族が困っていること入所に対する不安や楽舎への希望や要望などを聞いて真摯に受け止め、共に解決していけるよう努力している。	おためし入所をしたり、デイ利用して頂いたり、家族などの話を、いつでも親身になってよく聞き、職員が相談や心配事などいつでも聞き信頼関係がしっかりと築いていけるよう引き続き努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現場スタッフも含めた2名で面談し、本人、家族が必要としている支援を見極めるように努めている。前ケアマネ、病院の相談員さんと連携取り、可能なサービス助言を提案している。(独居の方への受診サービス、逆デイサービス)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、おためし入所、又面談(会)に何回も行ったりして、なじみの関係作りをしている。ご家族様からのアドバイスを頂き、家のなじみの家具を持ち込んで頂いている。(鏡、タンス、はし、茶碗など)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りから、掃除や洗濯、又一緒に食事やお茶をしたり日常生活を共に過ごし、日常生活の中で入居者が得意な事、出来る事を自主的にして頂けるような声掛けや、場を作り支え合う関係を築いている。		常に、人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れずに、接するように努めていきたい。お茶をしながら、TVを見ながら・・・ゆっくと話をする機会が多く共に笑い、共に涙しながら思いに寄り添い接している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には、楽舎での様子を報告し、時には相談をもちかけ、アドバイスを頂いたりしている。又、毎月家族へ手紙で本人の様子を伝える支援をしている。受診は基本的には家族の付添をして頂くこととしてしており、家族から情報を受ける様になっている。		楽舎での行事(笹巻き作り、七夕会、ありがとう会)には必ず家族へ案内を出し、なるだけ参加して頂き、楽しい時間を共に過ごして頂いている。又、家族と外出、外泊をいつでもして頂いており、家族との時間やつながりを大切にして頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	運営推進会議や楽舎の行事に家族を招待して会食をしたり、外出や外泊など日頃からいつでも頂き、共に過ごして頂ける時間を設けている。消防訓練などにも参加して頂いている。		今年初めてとなる、12月にある「1年間ありがとう会」(クリスマス会)では、家族との絆をテーマにお互い大切な人として、家族にも入居者本人にも、感動的な心に響く会となるよう、スタッフもよりいっそう頑張りたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中お見舞いやお手紙など、季節ごとに親しかった友人や家族の方に手紙の支援をしている。又、いつでも電話がかけられるようになっており、大切な人とのつながりが途切れない様に支援している。面会に来られたら、お茶をしたり、行事に招いたり、一緒に楽しんで頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のトラブルが起きないように職員が常に間に入り、仲を取り持つようにしている。個々の良い面を皆さんにお話をするなどし、誉めたり、認め合うように支援している。		夜、お部屋で一緒にお話をされたり、TVを見ながらお茶を飲まれたりと、それぞれの関係ができていく。(仲良しさん)日常生活の中で自然と関わり合い、よい関係築いていけるように引き続き、入居者の橋渡しとなるように努めていきたい。(孤立しない様に関わりを持つ事を忘れてはならない)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	御家族様の都合にて退所された方にも継続して訪問したりと、関係を大切にしている。当分、お手紙、写真なども送っている。又、前ケアマネさんに情報提供したり、かかりつけ医にもきちんと情報を送っている。		今後も、退所されてからも様子を見に行くなどして、関係を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と共に過ごすことで、どんな思いで過ごしたいか知る様に努め、尊重している。たとえ、不本意で入居されたとしても、その人に寄り添うことで思いを受け止めて共感し、少しでも不安を解消できるよう努めている。		1人1人、思いがくみ取れるよう、寄り添い引きつづきその人らしい暮らしが出来るよう、支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人より、生活歴、好みなどを聞き、無理のない様入居者それぞれに合わせてその人のペースで1日を過ごして頂けるよう支援している。		日頃の何気ない会話から、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方など、新たに分かることも多々あるので、その人のことをより深く知っていけるように関わりをより多く持っていきたい。(家族からも)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者、それぞれのペースでゆっくり過ごして頂いている。入居者の出来ること、出来ない事を見極め、出来る事を職員と一緒に頑張って頂き、困難な部分はさりげなく職員が支える様にしている。		食器拭き、おしぼり作り、盛り付け、洗濯たたみなど、入居者の得意な事を活かせる場面作り、役割作りをこれからも行っていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らして頂ける為に、本人の思いなど、しっかりと話を聞き、又、家族とも面会時に希望や思いなど、何でも話して頂けるよう、日頃から信頼関係を築き、介護計画に反映させている。		職員会や研修会なども、月に少なくとも1回は必ず行い、意見交換をし、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映させている。様々なアセスメントの方法を学んで、これからも職員研修などで取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が近づくと、スタッフ全員で話し合いを行い、見直しをしている。対応できない変化があった場合には、その都度カンファレンスを行い、新たな計画を作成し、家族へも伝えている。		日頃から、入居者の様子や変化などを職員間で話し合ったり、意見を交わしている。又、楽舎独自のアセスメントシートなどを使ってどこが行動障害なのか把握し、ケアプランに反映させている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	楽舎独自の介護録、ケアプランを作っており、毎月ケアプランも評価できるようにしている。モニタリングもきちんとしている。暫定2W1回、3か月、2回、6か月～3回1年プランとし、見直しはその都度行っている。(シート利用にてスタッフ全員で)		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援など地域行事への参加。又、ふるさとへのお墓参りなど柔軟な支援を行っている。家族のお泊まりも可能にしている。		今後、空き部屋利用や、ショート、日中の共用型認知デイなどの支援もしていきたい。入居者の方の逆デイもしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練や地域行事の参加、又は行事の際には地域の方や小学校へ参加を呼びかけている入居者の方と一緒にベランダより小学校の見守り隊を行っている。琴のボランティア、生け花、抹茶のボランティア、ぜにだいこなど様々な方との交流がある。		福祉体験学習(小・中学校)など受け入れている。又、県高等技術学校の養育機関として受け入れを行っている。西田小・ハッピークラブの皆さんとの2か月に1回の交流を、入居者の皆さんとても楽しみにしている。これからも見守り隊など、引き続き行っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者さんへ紹介したり、たすけあい事業を利用したり他のサービス利用を行うよう支援を行っている。ケアマネジャーに空き室情報を流している。		グループホームに入居申し込みをされた方など他の事業所への紹介等をしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の研修に行き、月1回職員研修にて職員へ研修を行っている。地域包括支援センターさんと介護予防について話あったり、福祉フェスティバルなど共に良い関係で協力している。		地域のグループホームの小規模の連絡会にて、あんしん支援センターの方に指導してもらったりしている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が入居前より信頼しているかかりつけ医を継続し、入居中の様子を医師に文章で情報提供し、又は往診時に様子を報告したりして適切な医療が受けられるよう支援している。119あるいは、精神科受診の件についても対応時情報を送って頂いたり、その都度、相談している。		かかりつけ医師との関係を築きながら入居者の方がよりよい医療が受けられるよう支援したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>精神科医と情報交換をして入居者の方がよりよい治療を受けられるよう支援していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>入院から退院まで家族、医師と話し合い入居者の方がよりよい医療が受けられるよう今後も看護職の方と相談出来るように努めたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>入院から退院まで家族、医師と話し合い入居者の方がよりよい医療が受けられるように努めていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>入居者にあつた終末期が送れるよう家族、医師と話し合い更によりよい方針を共有できるよう努めたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>チームとして支援ができる事、できない事をしっかりもち、重度化終末期にむけた支援をしてゆきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>十分な話し合いや情報交換を行い引き続き行いたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として敬意を持ち、1人1人の人格を尊重して言葉かけなど、十分に配慮し、プライバシーを損なわないようにしている。又、記録等の個人情報も、秘密保持に努め対応している。	信頼関係ができていても、入居者の方への言葉かけなどには十分配慮して、尊厳を守っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	馴染みの職員(居担)が1対1の関係を多く持ち、悩み、不安のど思いが言いやすい環境作りをしている。1人1人に合わせて話すスピードなどコミュニケーションを取りやすいように支援している。	入居者の思いを大切に、希望に添うように支援している。その人に分かるように説明し、何をするにも本人さんが納得した上で決めて頂いている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間など、本人さんの希望に添うようにしている。その人と視線を同じにし、思いが届くように支援している。朝、天気の良い日などにはどうしたいか、などみなさんと決めて頂く日もかなりある。	入居者の方の体調もあるので、その方のペースに合わせている。外出など行きたい所、したい事を尊重し、リフレッシュして頂いている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣時に衣服のほつれ、ボタン無等を気をつけて着ていただいている。入浴時は顔そり爪切り等に気をつけている。又ドライヤーをかけ髪を整えていただいている。理容美容は移動理容室を使用して本人の希望にそいつまでも男らしく、女らしさを保っていただいている。	馴染みの地区へのさんぽにも、スタッフと一緒に出かけている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が美味しくいただける様に口腔ケアをしている。今日は○○○にするけど何の味付けがいいですかとか聞いてなるべく希望に沿う様にスタッフと一緒に楽しみながら、盛り付け片付けをしている。	一緒に献立から考え、買い物にも一緒に行き、作っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶時に今日は何が飲みたいですかと声をかけその人にあつた飲み物、おやつをさし上げる様にして楽しいひと時になる様に支援している。おやつ作りなど楽しみのある時間を持っている。	たばこを吸う方には、職員見守りで換気扇をつけて吸って頂いたり、ぜんざい、どら焼き、ぼたもち・・・好物のおやつを出したりしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿パターンを理解し、行動、タイミング、時間を見てトイレ誘導を行なっている。気持ちよく排泄していただける様トイレの汚れ、ペーパーが足らなくない様に支援している。		立位保持トレーニング、又尿漏れのある方には爪先立ちトレーニングなど、1日3～5分程度毎日リハビリを行っている。(尿漏れが少なくなったり、立位が良くなったりと、良い結果が出ている。)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日の入居者、入浴日は決めているが、その人のみでなく身体状況希望に沿って入浴していただいている。入浴時間、回数などは決めていない。冬場は脱衣所、浴室を暖め気持ちよく入っていただける様にしている。		入浴時、ゆず湯など楽しみ事もしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後は居室、ソファ等で横になってもらったりテレビをスタッフと一緒に会話をしながら見たり夜、気持ちよく眠れるよう、日中レクリエーションで体を動かしたり、歌を歌ったり、お茶会をしたりして休息、安眠できるよう支援している。		廊下のソファなど、又外のベンチなどでティータイムを楽しんでいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝、カレンダーの日めくりを1枚めくってもらう係を決め、毎日その仕事をして頂いている。カラオケが好きな方には、カラオケセットがあり、好きな歌をみなさんと一緒に声を出して歌って頂き、楽しませている。調理の得意な方には、「料理長」として、盛り付けや味見をして頂いたり、さんぽが日課だった方には、毎朝楽舎の周りを歩いて頂いている。		その時々、入居者の方の役割を考えて、喜びが感じられるよう支援していきたい。本人の出来る事を感謝の言葉にすることにより、(出来る事を)再発見し、又入居者本人にも喜んで頂き、自信につながる様に支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーへ、日用品を買いに出かけ、自ら好きなものを選んで頂き、自分でお金を支払い、買い物の楽しみを思い出して頂いている。移動パンやさんも定期的に来るので、入居者は自分で選んで買い、おやつに食べたりして、いつも楽しみにしている。		家族へ、電話をたくさんかけられる入居者がおり、自ら、「電話代」として自分のお財布から料金を入れていかれ、その気持ちをスタッフも尊重して支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの美容院へ、パーマをかけに出かけ、女性の入居者が多いので、髪をきれいにしたり、お化粧をしたり、又、美容院のスタッフと楽しくおしゃべりをされたりと良い気分転換になっている。天気の良い日には、ドライブに出かけたり、外食をしたり、個別に支援している。		ドライブで出かけた場所でお弁当を食べたり、おやつを持って行ったりして、もう少し長く外での時間を楽しんで頂きたいと思う。つきうさぎ、ジョイフル、海、いのめ小運動会など。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春は桜の名所へ花見に、夏は地元のお祭りに、秋は紅葉を見に鱒淵寺へ出かけたりと、いつもは遠くて行けない所へも、季節に合わせて行事計画を立てて出かけている。家族へも案内を出して参加を呼び掛けたり、普段、入居者がどんな所へ行きたいと思っておられるか、面会時やお手紙で家族へ伝えたりして、家族と共に出かけられる機会作りをしてい		「墓参りに行ってみたい」という入居者の方の希望を汲んで、機会があれば、お墓参りに行ってみたいと思っている。家族へも協力して頂けるよう、これからも働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようになっており、かける時間を考慮しつつ、かけてもらうよう支援している。		家族や知人の声を電話で聞いて頂き、安心して頂いている。いつでも家族の声が聞けるよう、引き続き支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問を歓迎し、入居者と家族がゆっくりと話ができるように必ずお茶やお菓子を出し、寛げるよう支援している。		明るく、居心地よく過ごして頂けるように、職員は元気よくあいさつをし、笑顔で迎えるようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会などで職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッド柵については、安全第一に考え、転倒、転落の危険性が高い方には家族の了解のもと、その防止の柵をしている所もある。		ベッド柵については2本柵のみしている。身体拘束はしない方針。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はカギをかけずに自由に出入りができるようにしている。玄関に人の出入りがあると、チャイムが鳴る様になっており、入居者が危なくない様見守り、安全に配慮している。	○	居室の窓や、廊下の窓から、出ようとされる方がおられ、歩行も悪く危ない為(安全の義務)その方の居室のみ、窓にカギをかけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフルームからでも入居者1人1人の様子が把握しやすい作りである。常に職員がホールに必ず1人いるようにしている。		居室へ入る時は必ず外より声をかけ、ノックしてから入るようにしている。夜は頻回に巡回を行い、所在確認と安全に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや、包丁、針、ライターなど、危険なものはきちんと所定の場所へしまうようにし、毎日数がそろっているか確認している。(日誌に包丁確認欄あり)又、1人1人の状態に合わせて、必ず職員がついて一緒に野菜を切ったり(調理)お裁縫をして頂いたり、危険がないように注意しながら、できることはどんどんして頂けるよう支援している。		薬や、消しゴム、クレヨンやマジックなど、入居者が口に入れてしまうかもしれないものは、必ず置きっぱなし、出しっぱなしにしないよう、職員全員が徹底して気をつけている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応について職員研修を行っている。ヒヤリハットを書くだけでなく職員間で話し合い(コメントを書く欄がある)再発防止に努めている。		火災の避難訓練をし、入居者の避難訓練のアセスメントをしたり、薬は必ず声に出して確認をし、誤薬の防止に努めている。今後も内部、外部研修に積極的に取り組み知識を学んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員で緊急時についてのミーティング、研修を行い、日頃から急変時の対応などが出来るよう個々で訓練している(イメージトレーニング)119マニュアルもしっかり有り。		しっかり読んで各自で把握するように努めている。また、消防署の方に来て頂き、救急法やAEDの使用方法などの初期対応の訓練も受けており、今後も定期的に消防の方に来て頂き、訓練を行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員が適切に入居者を避難できる様に防災担当者が防災マニュアルを作成して、防災訓練を施行している。又、地域の駐在所・自治会に協力を得られるように働きかけている。		よく見える場所に「避難誘導アセスメント表」を掲示しており、日頃から、誰をどんな風に誘導すべきか分かる様にしてある。地震情報などケーブルテレビにて水の量・避難場所を確認できるようになっている。消火器は3本設置しており、どこに設置してあるかも分かる様に貼り出しており日頃から確認している。又、地域の会に加入するなどしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に、家族に起こりうるリスクについて説明を行っている。また、状態の変化等あればその時に起こりうるリスクについてかかりつけ医・ケアマネ・介護職員と話し合い、家族に説明し話し合いの機会を持つようにしている。		契約時、状態の変化時リスクについて家族などに説明し、その都度、家族と共に対策を考えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者全員、毎朝バイタルチェック時に身体の変化を観察している。申し送り時に報告を行い、その時、職員同士で話し合っている。異常があれば看護師・管理者に報告している。又、かかりつけ医師に報告し、指示を受けている。		毎日の暮らしの中で体調の変化に気をつけ、早期発見に努め、かかりつけ医につなげている。継続的に行っていききたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、入居者の服用する薬の目的・副作用・用法や用量について理解をし、薬提供があるので職員全員の把握に努めている。薬の変更時などは、きちんと申し送り、情報交換・把握に努めている。		全職員が見られる様になっている。薬のチェック表を作り、職員が薬について把握できるように努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事はバランス良く繊維のある物や、野菜をたくさん取り入れた料理を作っている。水分もたくさん取って頂けるように気をつけ、お腹のマッサージをしたり、毎朝のラジオ体操や歩行を行い、体を動かすようにしている。		入居者一人一人に合った便秘予防を行っている。体調を見て下剤、又は、浣腸・摘便にて排便コントロールをしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い自分で出来ない方には必要な支援を行い、清潔に保っているかどうか確認を行っている。		リッシング・ブラッシング・ポリデント使用にて個々に合った支援で継続して行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分制限量には気をつけており把握できている。栄養はバランス良く確保できている。入居者の個人に合わせおにぎり等にしたり食事時間も個人に合わせている。		毎日の食生活を大切に、一人一人のニーズに応じて支援していきたい。一日の介護記録に摂取量を記入している。そして看護師に繋げている。きちんと身心アセスメントを1日の記録に残して、スタッフ誰にでも見れる様にしてあり、支援に活かしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいをきちんと行い、食事・おやつ前には指先の消毒をし感染予防に努めている。家族が希望された入居者の方にはインフルエンザの予防接種を行い、11月に受けている。疥癬・血液・汚物類は必ず手袋を使用し感染予防に努めている。マニュアルもあり。		玄関に手消毒等の予防の張り紙をしている。今後も感染予防に努めていきたい。毎日の掃除は次亜塩素酸ナトリウムにて拭き掃除は徹底している。又、洗濯もきちんと塩素系ハイターにてつけおきしてから、洗濯している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後食器、調理器具等を塩素系ハイターで消毒を行っている。食材は新鮮で安全な食材を使用している。(野菜等は地元の朝市等の食材を使用する)ノロ対策として貝類は使用せず、他の食材も熱を通して使用している。		毎食後食器、調理器具等を塩素系ハイターで消毒を行っている。食材は新鮮で安全な食材を使用している。(野菜等は地元の朝市等の食材を使用する)ノロ対策として貝類は使用せず、他の食材も熱を通して使用している。魚は大社、地元の物を多く調理している。入居者の家族からの採れたての旬の物の頂き物も多くあり。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、近所の方が定期的に生け花をして下さったり、職員が季節の花を飾ったり、入居者がさんぼで摘んで帰った花を飾ったりといつも花のある、明るい空間になっている。又、玄関のスペースを利用し、交流会で小学生の描いた入居者の似顔絵を貼ったり、入居者の日頃の生活での写真を貼ったりして、親しみやすい雰囲気を作っている。	○	プランターなどで、四季の花作りをこれからもっと行っていきたい。畑なども、入居者の方と一緒にしていけるよう、整備していきたい。近隣の方の自発的な訪問があるとよい。その様に今後働きかけて行く。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの木のぬくもりと、照明は暖色系を使い、あたたかく落ち着いた雰囲気になっている。ホールには広いベランダがあり、陽がたくさんさしこんで明るく、入居者の方は日光浴を楽しまれたり、ソファーやTV、冬にはこたつを置き、家庭の雰囲気のまま、それぞれくつろいで過ごされている。		今後も季節感、生活感を感じて頂き、居心地良く過ごして頂けるよう支援していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファー、テーブル、ホールには和室、居間、ソファーがあり、テレビをみたり、編み物をされたり、お茶をしながら井戸端会議をされたりと、気のあった方同志で過ごされている。又、廊下、ホールの壁を利用して、季節にちなんだ入居者の作品を展示して、季節を感じて頂いている。		今後も、空間を利用して、入居者の作品展などを行ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人さんが以前から、大切にしてくられた馴染みの物品(家具、食器など)使用して頂き、心地よい空間となるようしている。家族様にも協力して頂き、住み慣れた部屋を再現している。		馴染みの品(鏡台、タンスなど)を大切に、心地よい空間作りに努めている。又、部屋作りの際にも、レイアウトや、タンスの名札づくりなど、家族様と一緒にやっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日1回以上は、必ず居室、廊下、ホールを掃除し、換気をしている。入居者の方には、急激な温度変化に十分注意し、衣類での温度調節や、冷暖房でこまめに調整している。		においのない施設が楽舎のセールスポイントになっている。こまめにきれいな空気の入換えを行ったり、天気の良い日には布団を干したり、トイレの掃除もハイターで必ず拭くなど、毎日徹底している。(トイレ掃除は1日最低4回、汚れたらその都度している)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽、廊下、トイレなどは手すりが設置されている。流し台は入居者の方が使いやすい高さになっており、調理を職員と一緒にやっている。洗濯物は、タオル干しがたくさん用意しており、車イスの方にも洗濯干しに参加して頂いている。又、床が木で作られており、入居者の足にかかる衝撃が少なくなるよう配慮してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	昔の家のように土の壁(ドロ壁)なので、入居者のかたも昔を思い出して、安心して生活しておられ、今まで混乱を招いた事例はない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを利用し、日向ぼっこなど楽しまれている。時には、外でお茶を楽しんだりもされている。洗濯ものを一緒に広げ干したり、プランターで花を育てて、入居者の方が水やりをしたりされている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方が在宅の時のかかりつけ医を、入居されてからもそのまま変えずに、楽舎でのかかりつけ医としている。その為、家族とも顔の見える支援が担当の先生、楽舎スタッフ共にできており、入居者の方のこまかな様子（情報）などつなげる事ができている。又、理念の通り（「愛、家族、絆のかけはしに・・・」）家族の面会時には、必ずあいさつ、お茶出しなどし、入居者の方の日頃の様子なども、その時に必ずお話ししている。月1回のお手紙でも、様子を伝える様支援している。